

特別支援教育

自立 活動

はじめの一步

自立活動の授業づくりを考えるうえでの、基本的なポイントをおさえたリーフレットを作成しました。

特別支援教育を受ける子どもたちが、主体的によりよく生きていくために、自立活動の指導の充実が図られていくことを願います。

このリーフレットには、ポイントになることだけを載せてあります。詳しくは特別支援教育教育課程編成要領を参照してください。



自立活動
はなぜ必
要なの？

教科とは
どこが
違うの？

的確な
実態把握
とは？

課題は
どう
絞るの？

目標設定
の仕方
は？

授業づくり
指導体制
手立ては？

自立活動
評価は？

自立活動はなぜ必要なの？

障害のある子どもたちは、障害による様々な困難さを抱えています。自立活動は、その困難さを、得意なことを生かしながら克服し、子どもたちが生活しやすくなる、学習しやすくなることを目的としています。そのため、特別支援教育において自立活動はとても重要です。

自分の気持ちを上手に伝えられないよ

私は急に予定が変わると不安になるわ

僕はじっとしてられないんだ

一人一人抱えている困難さは違います。



子どもたち一人一人、抱えている困難さは違うので、自立活動の指導内容も一人一人の困難さに合わせたオーダーメイドの内容になります。そのため目標や手だても一人一人違ってきます。

つまり…

**100人いれば
100通りの「自立活動」があります**

自立活動が「集団ではなく、個別の学習が基本」と言われている理由はここにあります。

自立活動が個別の学習であることは分かりました。でも、指導体制的に、マンツーマンでの授業は組めません。

それに、他の教科のように学習すべき内容が決められているのは違って、自立活動の指導内容を何もないところから考えるのは、とても難しく感じます。



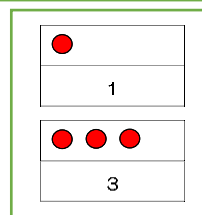
「必ずマンツーマンで授業を行いなさい」と言っているのではありません。指導内容を個別に設定していただくことが大事です。

個々の困難さに合わせて指導内容を作り上げるのは確かに難しいかもしれませんが。そのための考え方として、流れ図を活用して実態把握から具体的な指導内容の設定を行うと整理できます。



教科とはどこが違うの？

先日、ある先輩の自立活動の時間における指導の授業を見学してきました。その中で「指示された数字と同じ数だけシールを貼る」という活動を行っていたのですが、これは算数の課題になりませんか？



確かに算数の時間でもこのような課題は取り上げられます。では、なぜ自立活動の時間で行っていたのかというと、それは「ねらい」が違うからです。下の表に整理しました。

算数	自立活動
<ul style="list-style-type: none"> • 数に興味をもち、ものの集まりや数詞と対応して数字が分かる 	<ul style="list-style-type: none"> • 目と手の協応動作の向上を図る • 手指の操作性を高める • 決められた指示に従う力を育成する • 教師とのやりとりを通し、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につける • (子どもによってはその活動を行うことで) 情緒の安定を図る

自立活動では、指導内容を6区分27項目にまとめています。設定したねらいがどの項目と関連しているのかを考えつつ、ねらいに沿った指導内容を設定していきます。

【その他の例】

指導内容	教科としてのねらい	自立活動としてのねらい
ひらがなのなぞり書きをする	<ul style="list-style-type: none"> • 文字に興味をもち、字形を整えながら書くことができる • 日常生活に必要な語句を増やす 【国語】 	<ul style="list-style-type: none"> • 線からはみ出ないよう手先をコントロールする力を育てる • 線を意識して書くことで、集中力を高める
ストレッチ用の器具を使用して身体を動かす	<ul style="list-style-type: none"> • 道具を使い、のびのびとした動作で、運動を行うことができる 【体育】 	<ul style="list-style-type: none"> • 身体を動かすことで情緒の安定を図り、学習に向かう態度を整える

自立活動の時間で学んだことを…

他の学習面や日常生活の中でいかに活用できるか

がとても重要です。そのために時間における自立活動の時間はもちろんのこと、教育活動全体を通じて自立活動を行っていく必要があります。

的確な実態把握とは？



実態把握が大切！とは聞きますが、どんな視点から考えればいいでしょうか？ 子どものことはよく見ているつもりです…。

自立活動の指導は、的確な実態把握がポイントです。
実は…実態把握は、子どもの姿や情報を「知っている」だけでは十分ではありません！

- ①「子どもの情報を収集」し、それを整理しながら
- ②「指導すべき課題を明らかにする」、このステップが重要です。
それでは、子どもを深く理解するために必要なことを確認しましょう。



—子どもの情報を収集する—



ポイント
多角的に子どもを捉えること！

以下の視点を確認してみてください。
新たな一面が見えてくるかもしれません。

【日々の指導・関わり】

- ・関わり、やりとりでの様子
- ・複数教員の視点
- ・興味関心、好み
- ・障害特性との照会



【支援・指導計画の活用】

- ・学びの履歴
- ・有効な手立てや配慮

【客観的専門的指標】

- ・外部専門家の視点
- ・医療相談
- ・発達検査

【環境因子】

- ・家庭との面談、連絡帳の情報
- ・福祉の利用状況
- ・地域とのつながり



自分だけで子どもを捉えるのではなく、同僚の先生や、外部専門家、家庭や医療・福祉機関からも、それぞれの視点から、大切な情報が収集できそうですね！

学校ではよく、自閉症だからコミュニケーション、肢体不自由だから身体の動き等のように障害種のイメージで子どもを見てしまうことが多くあります。自立活動の6つの区分を子どもを見る「窓」として使うことでバランスよく情報収集ができるので、視点としておすすめです。



ついつい、子どもの「できないこと」ばかりに目が向いていましたが、「できていること」や「得意なこと」にも気づけました。

課題はどう絞るの？



いろいろな視点から見てみると、子どもの一面しか見えていなかったことに気づきました。でも、たくさん情報があって、指導のイメージができません…。

情報がたくさんあれば、自立活動の目標や内容が見えてくるわけではありません。情報を関連付けながら、今、指導すべき課題を明らかにすることが大切です。そのためにも、

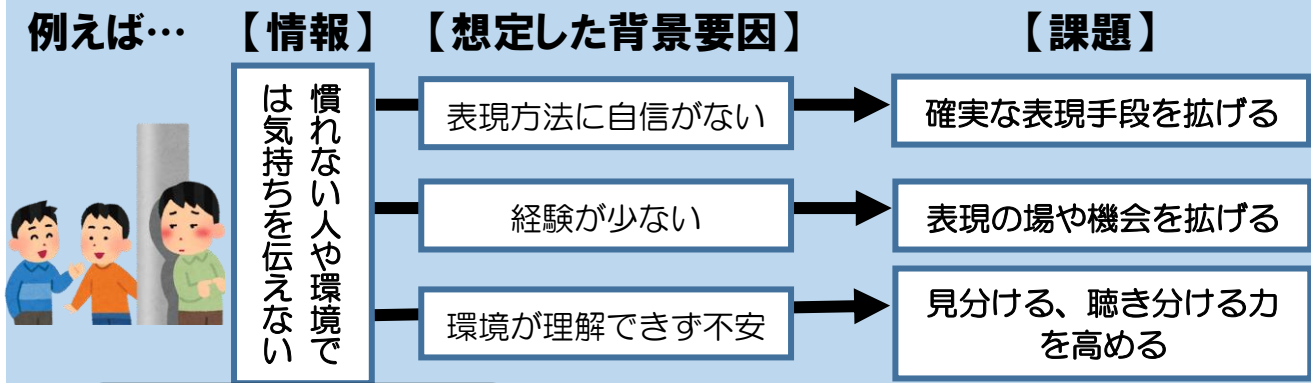
- ①背景要因を推察しながら情報を関連づけ、整理すること
- ②今までの学習歴の把握と数年後の姿の想定等の観点から生活年齢等に
応じて、課題を抽出することが、ポイントです。



—指導すべき課題を明らかにする—

ポイント①
背景要因を推察すること！

子どもの姿の背景要因をどう捉えたかによって、課題はガラッと変わります。「なぜ？」の視点を持つことが大切です！



ポイント②
今、指導すべき課題を明確にすること！

「これまで」と「これから」のビジョンをもって課題設定しましょう



ステップ①
これまで学んだことを踏まえて…

特定の教員との間では要求したり共感したりすることができるよう

ステップ③
生活年齢を踏まえて課題を具体化する

【課題】
☆具体的な表出手段を増やす？
☆今できる表現方法で関わる人を拓げる？

友達に自分から関わってほしい

ステップ②
数年後の姿を想定しながら…



「具体的な表出手段を増やすこと」を中心的な課題にします！

目標設定の仕方は？

ポイント1：場面や頻度、相手、状況などを具体的にする

ポイント2：成長の姿を想像し、長期・中期・短期と段階的に考える



では、抽出した中心的な課題から、目標設定をしてみましょう。この場合、目標はどう設定しますか？

コミュニケーション力を高めてほしいです。



漠然としているので、指導内容を想定しながら、もう少し具体的に考えてみましょう。どのぐらいの期間で、どうなることを想像している？

「〇〇部を卒業する頃」に、「自分の気持ちを伝えられる」ようになるとよいです。



誰に？どんな方法で？どの程度？場面は？

「関わりの多い先生に」、「カードを使ったり指差しをしたりして」、「学校生活全般で」自分の気持ちを伝えられるようになるとよいです。



では今年1年で考えてみるとどうでしょう？

「クラスの先生に」、「絵カードを使って」、「やりたい遊びの選択場面で」だったら取り組みやすいかもしれません。



そうすると、この場合の1学期の目標は「**やりたい遊びを絵カードから選び、クラスの先生に伝える**」ということになりますね。はじめは好きな活動とあまり好きそうではない活動のカードというように差をつけて、次第に2~3枚程度から選ぶようにしたらどうでしょうか？
このように**長期的な目標と共に短期的な目標を定める**こと、またその**内容も具体的にすることが**自立活動の指導の効果を高めるためには必要です。具体的な目標があると、具体的な指導や評価にもつながりますよ。

目標が具体的だと

授業で何をすることが
はっきりし

何ができるようになったか評価できる

授業づくり・指導体制・手立ては？



自立活動の授業は、児童生徒の実態に沿った目標から、主体性を引き出すような活動を設定していきます。

—こんな授業づくりをしていませんか？—

本やネットでおもしろそうな指導内容を見つけたけれど…？

子どもが興味関心を持てそうな内容かもしれませんが、しかし、その指導が子どもの目標と合っているかを確認しなければなりません。児童生徒を指導内容に合わせようとすると、実態から目標を設定している意味がなくなってしまう。

〇〇法を研修してきたけれど…？

どんなに優れた指導法や有名な指導法でも、子どもの目標に合っていないければ、使えません。目標を達成するために、指導方法があるのです。



6区分でグループを作ってみたけれど…？

6区分は自立活動の内容の代表的な要素である27項目を6つに区分・整理したものであり、目標になるものではありません。実態は一人一人違うのに、グループの全員が同じ目標ということは考えられません。



指導の手立てが先行する「指導内容ありき」の授業は、実態から課題が設定されていないので、子どもが思うように活動できないことがあります。

そうすると、子どもを叱責してしまったり、結果が表れないために、自立活動は不要だと考えるようになることがあります。



小集団の自立活動はどのような場合に効果的と考えられますか？

個別の指導だと落ち着いて学習ができて、友だちとの活動になると、問題となる行動を起こす子どもがいます。小集団の活動で順番を守ったり友だちの話を聞いたり、励ましあったり、自己主張をしたり、適度に妥協するような活動を取り入れていながら、集団の中での行動の仕方を学ぶような時に、小集団での授業を行うことは有効と考えることができます。

小集団はみんなと同じ活動をしていますが、個々の目標を設定する必要があります。



自立活動の評価は？

評価は子どもたちの学習に対する評価であるとともに、教員の指導に対する評価でもあります。指導を継続している間、「目標がどの程度達成されたか」「目標は適切だったか」、「指導内容や指導方法は適切だったか」等整理し、授業改善につなげていくことが大切です。

次につながる評価を！！

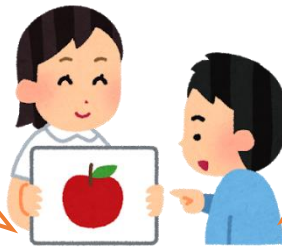


■子どもたちの学習の評価は、具体的な子どもの姿が見えてくる評価に

AとB…具体的な子どもの姿が見えるのはどっち？

A

コミュニケーションの手段を身につけることができた。



B

日常生活の中でも、担任に対し、取り組みたい教材や食べたい物について、写真カードを指さすことで、意思表示をすることができるようになった。

- 子どもたちの評価は、誰が見ても目標が達成されたかどうか判断しやすい具体的な子どもの姿で表現しましょう。
- 「時間における指導」だけでなく、教育活動全体を通じての評価も行います。
- 授業の振り返りを丁寧に行い、子どもたちがわかる形でフィードバックすることも必要です。



■子どもたちの学習の評価だけではなく、教員の指導の評価も行いましょう

CとD…次の指導・支援につながるのはどっち？

C

写真カードの枚数が多くなると、選べないことがある。



D

選択肢が興味関心のうすいもの場合は、その中から選ぶことが難しいので、興味関心の程度によって、選択肢の数を調整していく必要がある。

- 指導・支援の成果・課題を踏まえて、実態把握や指導目標、指導内容や指導の手立て等が適切であったか見直すことが大切です。
- 対象の子どもに関わる担任、自立活動担当、学年教員等、複数の教員で話し合うことも必要です。

